

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 8月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500172		
法人名	有限会社 ドリーム・アンド・ライフ		
事業所名	グループホーム もやい志和		
所在地	東広島市志和町冠584番地 (電話) 082-433-3837 (直通)		
自己評価作成日	令和2年6月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500172-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年8月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

木を沢山使った温もりのある建物と、ガラス張りの中庭を中心としたフロアは明るく、開放的です。昨年より施設内で猫を2匹飼いはじめ、入居者はもちろん、職員、ご家族の癒しになっています。施設に籠る日が続かないように、外出外食にも力を入れていましたが、3月以降はコロナの影響で、外出行事をはじめ、開設以来毎月開催していたふれあいコンサートも中止している現状です。しかし、このような状況でも職員が創意工夫し、毎日の生活が楽しいものになるよう、室内で出来る行事を提案してくれたり、ポジティブな職員が多いこともアピールしたい点のひとつです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍で今は難しい状況であるが、事業所で毎月のふれあいコンサートや年間行事の中で、もやい祭り、夏祭り、クリスマス会等を開催したり、定期的な外出、外食等で利用者が楽しく過ごせるように創意工夫している。地域との関わりは深く、消防団との防災協定を結んでおり、災害時に応援に駆けつけてもらうことや、事業所の行事に地域の方の参加やボランティアに来て頂いたり、地域行事に利用者が出掛ける等日常的な交流を行っている。また、毎年、初詣に行く地域の神社のご好意により階段にリフトを設置していただいた例もあり、地域とのつながりが構築されている。事業所で看取りを行っており、医師、家族と連携を図り良い形で最期を迎えられるように環境を整え、支援を行っている。毎月の会議や日頃の業務の中で職員が意見を出し合うとともに、定期的な研修も実施し、質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	スタッフコーナーに貼り、職員に周知できるようにしており、また朝礼の際に理念の確認を行っている。	理念に基づき、年間の事業計画、目標を決めており、職員は内容を周知した上で、実践している。理念は朝礼や毎月の会議の中で話したり、年2回の個人面談の中で年間目標も含め取り組みについて、職員に振り返る機会を設けており、日々の業務に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行事を通じて地域や家族との交流を図り、地域のそうめん流しやとんど祭りには毎年参加させていただいている。毎月ふれあいコンサートを開催していたが、3月以降はコロナの影響で開催していない。	地域とのつながりは深く、町内会にも加入している。事業所で行われる「もやい祭り」には地域の方が大勢参加され、神楽等の演目や出店もあり、盛大に行われている。地域の秋祭りなどの行事に利用者の参加もあり、地域の一員として日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者の家族やデイサービス利用の家族を対象とした勉強会を実施。過去には認知症や、嚥下機能についての勉強会を行ったが、今年は未定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、運営推進会議を開き、利用者の家族や地域の声を聴き、行事や運営に反映できるように取り組んでいる。会議のメンバーにも施設のボランティアとして来て頂き、施設の雰囲気等の感想をいただいている。	運営推進会議には各方面から幅広く参加され、同グループの小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護と合同で開催され、活発な意見交換が行われている。会議で挙げた意見で、インフルエンザの予防対策で職員の検温を始めたことや、地域の情報により、行事参加した例などあり、運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で市の担当者と情報交換をし連携することで疑問や問題点を提起し、協力をして頂ける関係を築いている。	介護保険課の職員が事業所に来られ、今後の地域の高齢者施設計画の為に、現状を聞きに来られた事もあり、日頃から互いに連携をとっている。地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加され、事業所の状況を伝え、情報交換を図っている。情報により、傾聴ボランティアが定期的に事業所に来るようになった事がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>過去にはY字ベルトを使用した方もいたが、毎月業務会議の際、カンファレンスにて拘束廃止について検討してきた。現在は拘束者は無し。身体拘束委員会では実際にミトンを付け、Y字ベルトにて拘束するなど、疑似体験を通じて拘束廃止への意識を高めている。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会、研修会を定期的に行い、正しい理解と実践ができるようにしている。転倒なく日中の活動を増やす事に関しても、業務内容・職員の人数と動きを何度も見直し、切れ目のない支援体制にするなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修やスキルアップ研修において虐待防止について学び、職員の意識向上に努めた。また普段の業務の中で、乱暴な言葉遣いや介助には、その場で嚴重注意し、虐待防止について再度指導する。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年間職員研修の中で、権利擁護についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前に重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や不安に思っていることを説明の中で明らかにし、理解や納得をして頂けるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望を気軽に聞き出せるようにしており、出来る限りそれに対応できるように業務改善をしている。また遠方の方にはメールやLINEにて意見や要望を伺っている。</p>	<p>日頃の面会の中で家族から意見を伺うことが多く、メールやLINEでも思いを聞いている。家族からの意見により、環境整備を見直したことがある。利用者については日頃の関わりの中から、思いを探り、機関車を見に行ったり、母校の小学校に行くことなど個別での外出をしたことがあり、意見を運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回の全体会議などでお互いの意見を提案していき、反映できるように検討・実施等を行っている。また年に2回、5事業所の合同全体会議にて、運営に関する報告や事業計画を周知している。互助会からの要望で、職員への日々コロナ対策に対する労いの意味を込めて、会社より慰労金の支給があった。</p>	<p>日頃の業務の中や、月1回の会議、年2回の個人面談などで職員からの意見を聞く機会を設けている。職員の意見を活かし業務の時間、流れの見直し、備品の購入、レクリエーションの内容を決めること等があった。職員の一人ひとりの意見や提案を大切に、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年二回、代表者と管理者の面接時、人事考課表に基づき、職員の実績、勤務状況を報告している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間職員研修や外部研修により知識、技術の向上を図り、また、無資格者には働きながら資格が取れるよう、勤務状況も配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修やグループホーム協会の会議等に参加し、お互いの事業所の情報交換やネットワーク構築に努めていたが、今年はコロナの関係もあり実施出来ていない。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>アセスメントシートで本人、家族の要望、不安を聞きだし、安心して生活できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>担当者会議で家族から本人の利用に関して、不安や要望を伺い、できるだけそれらの不安を取り除き、よりよい関係を築くように努力している。また、普段から積極的に要望や疑問などがなにかどうか伺うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントや担当者会議でニーズを見極め、ケアプランに反映して、よりよいサービスを展開できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>1人1人のできることややりたいことを見定め、食事の準備や後片付けなどを行うことにより、一緒に生活しているという意識を持っていただけるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>可能な限り面会にきていただき、一緒に時間を過ごしたり、行事などでは家族に参加頂き、共に本人を支えているという意識を持っていただく。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域の方が多く、買い物や散歩に出掛けることで、顔なじみや知り合いの人に会える機会を設けている。独居だった方は、衣替えの時期には、一緒に帰省し、少しの時間ではあるが服を選んだり、ゆっくり過ごす時間を設けている（ご家族了承のもと）</p>	<p>本人の情報を得た上で対応しており、飲食店、スーパー等馴染みの場所に出掛けている。買い物や病院受診で知り合いの人や近所の人に会うこともある。面会は家族だけでなく、知人、職場の元同僚等も来られる。家族の協力のもと、自宅への外出もあり、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の良い利用者同士を同じテーブルにしたり、男性利用者は同じ空間で静かに過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了されたご家族とは、メールのやり取りなどで関係が継続しており、亡くなられたご家族様の思い出話をしたり、認知症の相談に乗ったりしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の思いや希望をくみ取れるように関わる時間を多く持っている。収集した情報は、ノートやlineを使い管理者へ報告し、ケアに反映できるか検討している。馴染みのお店が分かり、食事に行ったり、職歴を聞き、機関車を観に行ったりしている。	日頃の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや気付きを申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有し、本人本位で支援できるようにしている。思いや意向に基づき、外出支援、食事のメニュー決め等に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやケアプラン、家族の面会時などを利用し情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居当初はアセスメントシートや家族より聞き、その後は日々の介護記録や職員からの申し送り等により状況把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画はアセスメントや家族からの希望、職員の意見に基づき作成し、本人、家族に納得を頂いて署名、印鑑を頂いている。また業務会議では関わり方を再検討し、改善案等出し合い、皆で実施している。</p>	<p>本人、家族の意向を踏まえた上、職員、管理者の意見に基づき、介護計画を作成する。サービス内容は利用者を取り組めることを具体的に挙げており、現状に即した計画になっている。介護計画は管理者がポイントをより詳細に記入しており、職員に供覧し、実践に活かせるようにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテに日々の生活を記録し、特記事項等あれば記録し、その中から介護計画、ケアプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族や本人のニーズをしっかりと伺い、柔軟なより良いサービスを提供できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーや公民館、神社等に出掛け地域との交流の中でご本人が暮らしを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医院はあるが、かかりつけ医はご本人やご家族の意向を伺いながら決める。毎月定期受診に伺い、必要に応じて専門医の受診や訪問看護の利用に繋げて頂いている。</p>	<p>入居時に本人、家族の意向に応じかかりつけ医を決めており、入居前から継続される場合が殆どである。協力医は内科、歯科、があり、それ以外の病院についても家族の事情を考慮し、主に職員が送迎、付き添いの支援をしており、適切な医療が受けられる体制を整えている。受診結果は変化、重要事項があれば、家族に報告をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員一人ひとりが情報を共有し、定期受診の際には情報や気づきを伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の地域連携室と密に連絡を取ったり、お見舞いに行き状態把握に努め、退院時に希薄な関係にならない様に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	もやいで出来る看取りについて説明し、ご家族の考えを確認している。またより具体的に理解できるように、過去の看取り体験をお話している。看取り期においては、かかりつけ医や訪問看護の指示、協力を仰ぎながら支援している。	入居時に重度化、終末期の事業所の対応、できることについて説明し、家族の意向を伺っている。事業所で看取りを希望される場合は医師、家族と連携を図り、利用者にとって最善の方法、環境を考え、職員間で情報を共有し、統一した方針で支援している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対応として職員研修を行い、実践力を身に付けている。昨年急変による心肺停止の利用者に対しても、落ち着いてAEDや心臓マッサージを行うことが出来たと思われる。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回消防署と連携し、夜間を想定した訓練等も取り入れ行っている。隣に住む消防団とも契約を交わし、災害時は通報システムで自動に連絡がいき、協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施しており、消防署より、火災時の対応についてのDVDを借りて視聴した事もある。訓練を重ね、職員は災害時の避難、消火方法などの対応について周知している。また、災害に備えて食糧、飲料水、カセットボンベ等備蓄もある。地域の消防団との協力体制も築いており、事業所で災害対策を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「一人ひとりの人格・尊厳を大切にす る」と理念にもあるように、配慮に欠 けるような言葉遣いや対応はしないよ う教育・指導している。配慮に欠けた 言葉使いの職員にはその場で注意して いる。	日頃の関わりの中で職員の言葉遣い、 対応で気になることがあれば、その都 度注意したり、朝夕のミーティングや 会議、必要に応じて個別面談等で指導 している。人格を尊重した対応がとれ るよう努めている。また、利用者の失 禁の際、職員は「大きな声を出さな い」、「個室で対応」等プライバシー に配慮した対応も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を 表したり、自己決定できるように働 きかけている。	日々の会話や相談等の関わりの中で、 本人の思いをくみ取れるように心掛け ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大 切にし、その日をどのように過ごし たいか、希望にそって支援してい る。	全てが最優先と言うのは難しいが、一 人ひとりの気持ちを大切に、出来 るだけ一日一日が充実した日になるよ うに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれ ができるように支援している。	定期的に美容院が来られ散髪をお願い している。また起床時には洗顔や整容 に心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一 人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や食 事、片付けをしている。	日頃は手作りの食事ではないが、月に 一度はリクエストに応え、旬の野菜を 使った手作りの食事を楽しんで頂いて いる。料理を作ることは難しいが、 コーヒーを一緒に入れたり、お菓子作 りのお手伝いなど簡単なことではある が、話をしながら楽しみながら取り組 まれている。	月に1度は利用者の意向をメニューに 取り入れ、手作りの食事を提供してい る。おやつではスイーツ作りを職員と 一緒に定期的に行っている。また、事 業所でバーベキューをしたり、外食に も出掛ける等食事を楽しむことができ よう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量のチェックをし、摂取量の確認を行っている。また、個人の嗜好に合わせてコーヒーや紅茶などを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の清潔維持と誤嚥性肺炎の予防の為、毎食後必ず口腔ケアを行ない、また自歯がある方は協力医院の歯科に定期受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツを安易に使用せず、トイレ誘導し排尿・排泄を促している。同時に排泄記録表に記録することで排泄パターンを把握するよう努めている。入院中尿意なくなり、おむつ対応だった利用者に対して、排泄表を確認しながらトイレ誘導を続け、リハパンになられた方も多い。</p>	<p>排泄記録をもとに利用者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。トイレへの誘導を行うことで尿意の表出が確認できるようになった例もある。日中はトイレでの排泄を基本とし、本人の残存能力を活かした取り組みを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>レクでの体操や、食事・水分を十分摂り、基本的な事をしっかり行い、便秘にならない様に心掛けている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>午前中の入浴で、週二回となっているが、本人の希望によっては入浴日以外に入浴したり、時間をずらして入浴するなど、出来る範囲で希望に沿うようにしている。</p>	<p>入浴は本人が希望しない場合は時間帯、日にちを変更するなど個々に応じ柔軟に対応している。リフト浴があり、重度化にも対応している。入浴時職員がお話をしたり、利用者と一緒に歌うことや、入浴剤の使用、季節により菖蒲湯も行う等、入浴を楽しむことができる環境づくり、支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中の活動量を増やし、夜間は しっかり眠って頂くよう努めて いる。また食後は横になり休息 を取って頂いたり、目の前にホ ットミルクを飲んで頂いたりし ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>薬の処方用紙をカルテに保管し 、用法、用量について皆が把握 できるように努めている。また、 変更、追加があった場合は、口 頭及び申し送りノート等にも記 載し、職員の周知徹底に努めて いる。服薬管理の担当を定期的 に変えることにより、皆が薬に 詳しくなり、理解が深まっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>レクや毎月の行事などに喜びや 楽しみを持って頂けるように支 援している。また、食事の準備 や片づけなども、やりがいや生 きがいを感じて頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>コロナの影響で外出行事が出来 ないの で、近所の散歩やドライブを行 っている。</p>	<p>今年の3月以降はコロナ禍の影 響で外出が難しい状況であるが 、散歩、車でのドライブは行っ ている。それまでは、神社への 初詣、公園への花見等計画的に 行っていた。利用者の意向に応 じた個別の場への外出も実施し 、三原等遠方に出掛けたことも ある。また、家族の協力を得て の自宅への外出、墓参りなども 行っていた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>以前は自己管理されている方も おられたが、現在の入居者は重 度の認知症の方が多く、施設で 管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>施設の電話を使用し、いつでも連絡をとれるように支援している。施設の利用者様で集合写真を撮り、その写真を入れた年賀状は、ご家族様にとっても喜んで頂けた。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>木の温もりを感じて頂けるような住居、家具を提供し、随所にソファや談話スペースを設置することで、くつろぎの空間を用意している。また、窓や天窓から自然光を取り入れ、明るく、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。昨年からは施設内で猫を二匹飼い始め、利用者、職員の癒しになっている。</p>	<p>共有空間には利用者と一緒に作った作品が飾られ、生花もあり、彩り、温かみを感じれる空間である。木を基調とした建物で、ガラス張りの中庭があり、明るく開放的で、普段座る椅子とは別にソファも配置され、利用者が落ち着いた環境で過ごせるよう配慮がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>仲の良い利用者同士の席を隣同士にしたり、ソファを数か所に設置しているので数人と座ったり、別の場所に一人で座ったりせ出来る様に、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>クローゼット、洗面台は備付だが、ベッド、タンス、テレビ等は使い慣れたものを持参して頂いている。家族の写真やお花など、好きな物を飾って頂いている。</p>	<p>自宅で使い慣れた馴染みの物を持参され、タンス、テレビなど思い思いの物を持ち込まれており、自宅同様に居心地良く過ごせる環境となっている。また、ドアの横にはニッチ棚があり、人形など自由に飾ることができ、自分の部屋の認識ができるだけでなく、個性を活かせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ケアの目標として、自立支援が実践できるように声掛け、介助を行なっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもやい志和

作成日 令和2年9月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害においては、マニュアル、備蓄、訓練等の取り組みは出来たが、今回のコロナに対する対応は不十分などところが多い。	自然災害と同様、コロナ感染防止対策においても、利用者様が安心して暮らせ、また職員も安全に働くことが出来る環境を作る。	・コロナ感染防止におけるマニュアル作成。(作成済) ・マスク、防護服等の十分な備蓄。 ・コロナ感染を想定した訓練。	半年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。